

7月6日(月)

誰の声に聞き従いますか

聖書朗読 マルコ 9：1～13

羊はその声を聞き分けます。彼は自分の羊をその名で呼んで連れ出します。・・・すると羊は、彼の声を知っているのに、彼についていきます。 ヨハネ 10：3～4

「黙って、私のいう事を聞きなさい。これをしなさい。こっちへ来なさい」。子どものころよく聞いたフレーズでしょう。

大人になった今でも、私たちを聞き従わせようとする様々な声があるのではないのでしょうか。言葉で語られたり、文章で書かれたり、ツイッターやメッセージなどを通して。こうした声の中には、「これは神のみこころではない」と容易に見分けることのできるものもありますが、「人それぞれ、捉え方は異なるものだし、完全な真理などない」という誤った考えに基づくものや、「神は愛であり恵みに溢れたお方なのだから、何をしようとか関係ない」といった、真理を捻じ曲げるような声もあります。また、人に完璧になることを求めるもの、人の運命を予言するもの、あらゆる恵みを取り去ろうとするものもあるでしょう。

エデンの園で、神が最初の2人の人間に禁じられた木の実について、食べても死にはしないと偽ったへびに始まり、敵は神のことばを捻じ曲げ、人々を困惑させ、誤った道へと導こうとひたすら働いています。

古代イスラエルにおいて、羊飼いの声に聞き従った羊のように、私たちもイエス様の御声を聞き分けることができます。私たちは、イエス様との交わりの時を過ごし、みことばを学び、従うことによって、イエス様の導きを証してきました。銀行員が偽造紙幣を見分けることが出来るのは、本当の紙幣の見た目や手触りを知っているからです。同じように、私たちもイエス様に心から熱い思いをもって聞き従うことによって、私たちの聞く声がイエス様からのものなのか、そうでないのかを、聞き分けることができるのです。

讃美歌 365

祈り 親愛なるイエス様。あなた様の御声を聞き分け、ただその声に聞き従うことのできる知恵をお与えください。私を導いてくださることを感謝します。

あなた様の尊い御名によって。アーメン。

バージー・A・ナイマン

コロラド州 ニューキャッスル

今日の力

2015年7月6日～7月12日

翻訳 藤岡伸子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

7月7日 (火)

幼子の心

聖書朗読 マルコ 10:13~16

まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、入ることはできません。 マルコ 10:15

我が家の5人の子どもたちがまだ幼い頃住んでいた家は、すぐ隣に空き地があり、近所の子どもたちがそこに集まってよく遊んでいました。

ある夏の午後、子どもたちが遊んでいるのを遠くから眺めていたのですが、ジョイという、我が家の向かいに住んでいる女の子が、ハンクという、その通りの角に住んでいる子に非常に腹を立て、ついには彼をひっぱたいっているのが見えました。

けれども、ハンクは叩き返すことはせず、家へ帰り、母親にジョイがしたことを報告しました。すると、その母親は彼を空き地まで連れ戻り、本当に彼をひっぱたいのかとジョイに問いいただきました。ジョイは、とまどっていましたが、結局「やっていない」と答えたのです。ハンクの母親はそれで納得し、家へ帰っていきました。

ハンクの母親が家へ戻って間もなく、ジョイは泣き出し、家へ走って帰り、母親にこう話したのです。「私、やってないと言っちゃったけど、本当はひっぱたいの」。ジョイの小さな心は、真実を言わなかったために、罪悪感に苛まれたのです。

幼いこどもの心を持つというのは、なんと素晴らしいことでしょう。

私はすべてを救い主のもとへ差し出します。
わたしには荷が重すぎます。
わたしには荷が重すぎます。
—— フランセス・R・ハヴァガル

讃美歌 460

祈り 親愛なる主よ。罪を犯したとき、どうか幼子のような心で、直ちに悔い改めることが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ラルフ・フォスター
アラバマ州 タスカンビア

7月8日 (水)

真理の側に

聖書朗読 マルコ 12:13~17

わたしは、真理のあかしをするために生まれ、このことのために世に来たのです。真理に属する者はみな、わたしの声に聞き従います。 ヨハネ 18:37

イエス様は真理をお語りになりましたが、真理をただ語られただけでなく、真理に生きておられました。マルコ12章で、我々こそ真理を知っていると自負する人々や、イエス様が真理など知るはずがないとする人々に対して、イエス様が語られた様子から、真理がどのようなものであるか知ることができます。イエス様の彼らへのお応えによって、本当の真理が分かります。

真実なお方であるイエス様に立場を脅かされた者たちは、イエス様を政治的な罠に嵌めようと、こう質問します。「カイザルに税金を納めるべきか」。これに対しイエス様は、真摯にそして毅然とした態度で、「なぜ、わたしをためすのか。銀貨に描かれた肖像は誰のものか」と逆に彼らに問われました。そして、小さな真理から、偉大な真理を導き出され、「カイザルのものはカイザルに返しなさい。そして神のものは神に返しなさい。」とお答えになりました(17節)。この真理を示され、偽善者らは驚嘆しました。イエス様は、この世の権威と天の権威を混同されることはなく、イエス様に従う者たちに、より大切な権威を知ることが願っておられました。

これに続く章で、イエス様は最も大切な真理を語っておられます。『心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして—ただ神お一人を—あなたの神である主を愛せよ。次に、あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』

イエス様は真理に生き、真理をお語りになりました。真理は、私たちの理解できるシンプルなものであり、私たちに道を示し、力を与えてくださるものです。私たちは、この世の権威や影響力あるものによって惑わされることがあっても、何が大切かを知っています。真理によって、神を称え、神を愛し、他者と自分自身を愛し受け入れて歩むようにと教えられています。真理に立って歩んで行きましょう。

讃美歌 501

祈り 親愛なる父よ。あなた様のみことばの真理によって、私たちをイエス様に向けてくださることを感謝します。「この道こそ、真理であり命である」。イエス様が私たちに真理を語ってくださったことを感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジャニス・グリーンリーフ
アラバマ州 ハンツビル

7月9日(木)

周囲の貧しい人々

聖書朗読 マルコ 14:1～11

貧しい者が国のうちから耐えることはないであろう……。 申命記 15:11

高価な香油をイエス様に塗った女性のお話がありますが、その場にいた人々は、なんともつたいないことをするのかと、彼女を非難しました。それは大変高価な香油だったのです。彼女が何か月もかけてそれを少しずつ貯めていたのか、それとも、それを買うのに十分なお金があったのか分かりませんが、どのようにして手に入れたものであろうと、それほど高価な香油をイエス様に使ったということから、イエス様に対する彼女の愛と献身的な姿勢が窺えます。

周囲の人々の中には、そんな高価な香油は、それを売って、もっと貧しい人々に与えた方が価値があると思う人もいましたが、イエス様は、彼女がイエス様の埋葬の準備をしていたということ、そして、貧しい人々はいつでもともにいるが、ご自身の死はたった一度であるということを知っておられたのです。

このことは、イエス様が貧しい人々を顧みられないということなのでしょう。いえ、決してそうではありません。イエス様は現実を見ておられたということです。貧しい人々に心をかけることは、旧約聖書でも命じられていることであり(申命15章)、今も、私たちに命じられていることです。

貧しい人々にイエス様が最も心をかけておられることは、新約聖書のあらゆる箇所を示されています。あなたがた自身、それほど恵まれているとは思えない方もいるかもしれませんが、もっと幸運に恵まれない人々が多くいます。そのような恵まれない人々に、手を差し伸べる機会を探していきましょう。

讃美歌 391

祈り 親愛なる主よ。私たちを必要としている誰かに手を差し伸べ、その人を助け、愛せるようにと努力する私たちに祝福をお与えください。貧しい人々に目を向けるとき、自分たちがいかに恵まれているかを認めることが出来るようにしてください。

イエス様の尊いお名前によって。アーメン。

ナンシー・ミラー

テキサス州 アビリン

7月10日(金)

聖なる矛盾

聖書朗読 マルコ 14:32～42

神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあつて、神の義となるためです。 IIコリント 5:21

神の御子が、父の命を受け入れることをためらわれたということはいったいどういう事でしょう。イエス様は地面にひれ伏し、出来る事ならその杯を過ぎ去らせてくださいと願われましたが、それは決して肉体的な痛みや死を恐れていたからでもなく、多くの者が勇敢に立ち向かっていった死というものに、怯えたのでもありません。

主が恐れを抱かれたのは何でしょう。誰も真実は分かりませんが、私はこう考えます。イエス様は、神から引き離される時が来ることを悲しまれたのではないのでしょうか。アーサー・ピンクは、次のように書いています。「キリストは神から引き離された。それは、私たちが永遠に主のご臨在にあずかるため。キリストは、恐ろしい暗闇へと入って行かれた。それは、私が光のうちを歩むため。キリストは苦しみの杯を飲まれた。それは、私が喜びの杯を飲むため。キリストは見捨てられた。それは、私が赦されるため」。

イエス様が、完全に誠であるはずの神に見捨てられたのか。このことは、矛盾しているようですが、そうではありません。罪のないお方が罪ある者となってくださったこと、それは、義とは掛け離れた私たちが、義とされるためだったのです。

最も敬愛する友への感謝の印として、どんな言葉を用いたらよいだろう。

あなたの死は悲しむべきもの。しかし、あなたの憐れみは尽きることがない。

——クレアボーのベルナルド

讃美歌 第二編 158

祈り 親愛なる主よ。何度命を与えられたとしても、あなた様の十字架に表された愛、それが示す苦しみ、そこに表された慈しみは、到底測り知ることはできません。たった一度の生涯を、あなたへの讃美と感謝を捧げながら、生きることが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ディヴィッド・ラングフォード

テキサス州 ラボック

7月11日(土)

神の国で新しく飲む

聖書朗読 マルコ 14：22～31

このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。
I コリント 11：26

イエス様は、神の栄光を表す新たな大切な象徴として、過越しのための杯と種を入れないパンを取られました。杯は、主の血潮、種を入れないパンは、主の捧げられた御からだを覚えるものとして。

この杯とパンは、私たちの罪のために払われた犠牲を象徴するものです。このことを覚えて、どんなに心に平安が与えられることでしょう。けれどもイエス様は、さらにもう一つ約束をなさっています。『神の国で新しく飲むその日まで、わたしはもはや、ぶどうの実で造ったものを飲むことはありません』(マルコ14：25)。

神の国は、ヨエル2章やダニエル2章で約束されているように、間もなくやってきます(使徒2章)。キリストにある教会で人々が礼拝や食事のため集まっているのを見ると間もなく。トロアスの教会では、コリントの教会と同じように、日曜ごとに集まっていたが(使徒20：7)(I コリント11)、それは日常の食事ではなく、十字架を覚える食事でした。

イエス様がなされた弟子との約束は、『いつも、あなたがたとともにいます』(マタイ28：20)と言うものでした。私たちが主の日に、主にある食卓にあずかるとき、誰よりも称えるべきお方、主ご自身が私たちとともに食事をしてくださるのです。赦し、救い、そして、ご臨在によって心の平安をもたらしてくださる主の恵みを、ともに覚えましょう。

讃美歌 203

祈り 父よ。あなた様を覚えます。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ビル・アドコックス

オクラホマ州 ベサニー

7月12日(日)

安易な選択

聖書朗読 ルカ 4：1～8

もしあなたが私を拝むなら、すべてをあなたのものとしましょう。 ルカ 4：7

何年前のことですが、私ともう一人が、あるプロジェクトを任されたことがあります。けれども、その進め方には、私たちの間に大きな隔たりがありました。そこで、私はそのプロジェクトと同時にもう一つプロジェクトを任されたこともあり、2人のやり方の違いを忍耐強く克服しながら、じつくりと時間をかけてプロジェクトを進めていくだけの余裕もないと思い、誘惑に負けて安易な道を選び、基本的には私のやり方で進めるように、とプロジェクトのパートナーに、ややゴリ押しの短いメールを送りました。しかし、結局、そのように安易な選択をしたことによって、こじれたものを解決するのに、何か月もかかることとなったのです。

サタンは、イエス様に、早くて安易な選択肢を与えて誘惑しようとしてしました。ひざまずいてサタンを礼拝すれば、望むもの、国々のいっさいの権力と栄光を手に入れることができる。サタンは、私たちにも同じ手を使います。何か難しい選択を与え、私たちが早急かつ簡単に解決したいと願うように仕向けます。力と惑わしと安易なやり方を示して。

けれども、特に神の国では、大切なことはそんなに「早急かつ容易に」成し遂げることはできません。困難な道こそ、最後は報われる唯一の道であることもあります。イエス様は、人々を救うため、十字架の道を歩むことを決意されました。私たちは、イエス様によって、どこへ導かれようと、どんな困難に直面しようと、イエス様に従うよう召されているのです。

讃美歌 452

祈り 親愛なる主よ。私が安易な選択をしている領域を私に示し、時間と気力を使って、正しい道を歩む勇気をお与えください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

クリス・アルトロック

テネシー州 メンフィス